

「働き方改革」は、本当にこれでいいのか。

『ワーク・ライフ・バランス』は平成十九年十二月に憲章と行動指針が策定されました。仕事と生活の調和、長時間労働の抑制等を掲げています。

この一見、進歩的で合理的なもので、非の打ちどころがありません。しかし、我々中小企業の社長は、このことを鵜呑みにしても良いのでしょうか。

「働き方改革」の前提には、「仕事」は、辛いもの、苦しいもの、いやなもので、できる事ならしたくないもの、ということがあります。果たして、そういうものでしょうか？

仕事を、一所懸命することで、初めて、仕事の喜びや、楽しみ、使命感を会得することが出来ます。仕事を通じて、人生の何たるかを知ることもあります。

幸福度の高い人は、そうでない人に比べて創造性で3倍、生産性で31%、売上は37%も高い傾向にある。社員の幸福度と業績は比例するという米イリノイ大学のデーナー博士の研究結果にもあります。

そもそも、我々日本人は、働くことが大好きな民族です。神代の昔から、神様が、機を織り、稲を植えておられるのです。(この伝統は、今も皇室に残っています。妃殿下は、小石丸という蚕を飼っておられます。陛下は田植・稲刈りをなさいます。十一月二十三日は正しくは「新嘗祭」ですが、今は勤労感謝の日になりました)

現に、中小企業の我々も、時間を忘れて仕事に没頭し、無我夢中で働く中で、仕事とはこういうものかと自覚し、仕事観を確立し、人生観を創り上げて来たのです。

素晴らしい製品を創り、感動のサービスを提供し、お客様に喜んでいただくことを何よりの生甲斐に、誇りにして来たのです。半人前から一人前のレベルになり、更に名人・達人のレベルになってこそ、世の中のお役に立つ人物になるものです。

それにつれて、収入も伸び、役職を上がり、子供達にも仕事の喜び・意義・価値を伝えて行けるのです。

逆に、仕事は辛く苦しいので、できるだけ働かないことが、良い事だとしたら、子供たちに、どんな仕事観・人生観を伝えるのでしょうか。人間は心があるから、魂を持つから人間なのです。欲望や、我欲だけでいいという動物ではないはずですよ。

中小企業でも、週休三日にする企業も出て来ました。それはそれで良いとして、高付加価値を目指す必要があります。技術を磨きに磨き、ダントツNo.1の価値に高めて行く必要があります。その中で、お互いの人間性を磨き、人格を高めて参りましょう。

今月のポイント

正しい商人道を歩んで

参りましょう

